

# 保険・年金 フォーカス

## 新型コロナウイルスの感染拡大が 保険会社に与える影響(1) —米国大手保険 G 及び大手再保険 G の 2020 年第 2 四半期業績発表による—

常務取締役 保険研究部 研究理事

ヘルスケアリサーチセンター長 中村 亮一

TEL: (03)3512-1777 E-mail: [nryoichi@nli-research.co.jp](mailto:nryoichi@nli-research.co.jp)

### 1—はじめに

米国や欧州においては、7月下旬から8月にかけて、2020年の第2四半期の業績発表が行われてきている。4月下旬から5月にかけて行われた2020年の第1四半期の業績発表における新型コロナウイルス(COVID-19)の影響に関する各社からの情報提供については、保険年金フォーカス「[新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響\(1\)—米国大手保険 G 及び大手再保険 G の 2020 年第 2 四半期業績発表による—](#)」(2020.5.22) 及び「[新型コロナウイルスの感染拡大が保険会社に与える影響\(2\)—欧州大手保険 G の 2020 年第 1 四半期公表による—](#)」(2020.5.27) で報告した。

今回の第2四半期の業績発表は、COVID-19の感染拡大が本格化した時期に対応するものであるだけに、各社の実際のCOVID-19の影響の程度や今後の動向をどのように見ているのかについて、引き続き不確実性が高い要素が多いものの、第1四半期業績発表時に比べればより具体的なデータに基づいた判断等が行える状況になっていることから、注目されるものとなっていた。

今回は、こうした米国や欧州の保険会社の第2四半期の業績発表の中から、大手保険グループのCOVID-19の影響等に関する公表内容について、2回に分けて報告する。まずは、今回のレポートでは、米国大手保険グループ及び大手再保険グループの状況を報告する。

### 2—米国大手保険グループの公表内容

ここでは、米国大手保険グループの中から、Prudential Financial、MetLife 及び AIG の状況について報告する。

#### 1 | Prudential Financial

Prudential Financial の 2020 年第 2 四半期の業績発表<sup>1</sup>において、COVID-19 に関して、Charles Lowrey 会長兼 CEO が「第 2 四半期には、パンデミックと経済・市場ショックの影響の中で回復力を

<sup>1</sup> [http://s22.q4cdn.com/600663696/files/doc\\_financials/quarterly\\_reports/2020/Q2/2Q20-Earnings-Press-Release\\_Final.pdf](http://s22.q4cdn.com/600663696/files/doc_financials/quarterly_reports/2020/Q2/2Q20-Earnings-Press-Release_Final.pdf)

示した一方で、補完的なビジネスミックス、堅固なバランスシート、慎重に構築したリスクプロファイルから利益を得て、緊急性を持って2020年の優先事項に取り組み続けた。目標とする年間1億4000万ドルのコスト削減を達成する軌道に乗り続けており、国際的な収益基盤の高成長市場への移行を進めている。」と述べた。

Prudential Financialの第2四半期(3カ月、以下同様)は、グループ全体で、前年同期の7億8000万ドルの純利益に対して、24億9000万ドルの純損失だった。また、調整後営業利益(Adjusted Operating Income: AOI)(税引後)は7億4200万ドル(前年同期は、12億6200万ドル、以下同様)だった。

COVID-19が第2四半期の結果に与えた影響<sup>2</sup>について、事業部門別に以下の記述が見られる。

## (1)米国事業

### (1-1)退職

当四半期の業績は、主に投資スプレッドの縮小を反映しており、COVID-19の準備金による利益で相殺されている。

純流出額は6億ドル、フル・サービスからの流出額は16億ドルで、これは主にCOVID-19のために加入者の引き出しが増加したことによるもので、機関投資家向け商品からの純流入額10億ドルによって一部相殺されている。

### (1-2)団体保険

当四半期の業績は、主にCOVID-19による芳しくない引受実績及び投資スプレッドの縮小を反映している。

### (1-3)個人生命保険

当四半期の業績は、費用の減少により一部相殺されたが、主に投資スプレッドの縮小及びCOVID-19による引受実績の悪化を反映している。

## (2)国際事業

### (2-1)ライフプランナー

当四半期の売上高は1億7800万ドルで、前年同期に比べ30%減少したが、これは主に、COVID-19による販売活動の制限により、日本での売上高が減少したことによる。

### (2-2) ジブラルタル・ライフ&その他

当四半期の売上高は1億9800万ドルで、前年同期に比べ34%減少したが、これは、COVID-19による販売活動の制限により、ライフ・コンサルタント及び銀行の両チャネルの売上高が減少したことを反映している。

COVID-19がグループ全体のAOIに与える影響(想定)について、ビジネス区分別内訳は、以下の図表の通りとなっている。

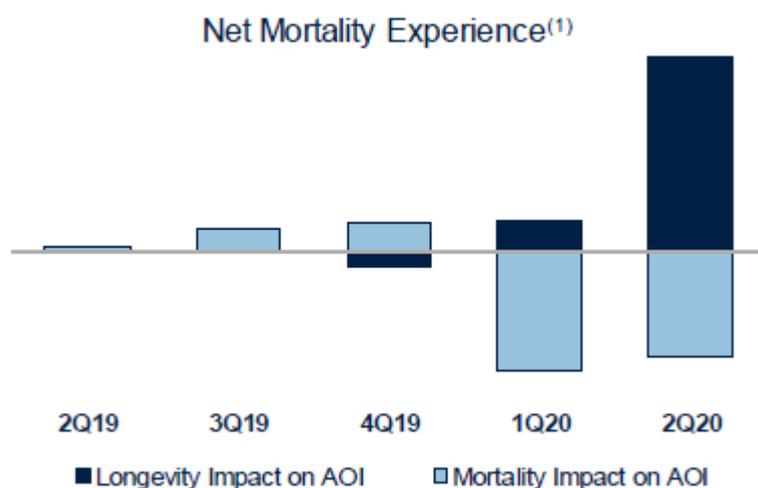
<sup>2</sup> [http://s22.q4cdn.com/600663696/files/doc\\_financials/quarterly\\_reports/2020/Q1/1Q20-Earnings-Call-Presentation\\_vFinal.pdf](http://s22.q4cdn.com/600663696/files/doc_financials/quarterly_reports/2020/Q1/1Q20-Earnings-Call-Presentation_vFinal.pdf)

COVID-19による影響額

(単位:百万ドル)

ビジネス区分	第2四半期AOI (税引前)	第2四半期 (COVID-19 による影響額変化)	第3四半期(想定) (COVID-19 による影響額変化)
PGIM	324	▲15	10
退職	281	0	0
グループ保険	5	0	0
個人年金	249	0	0
個人生命保険	▲64	0	0
ライフプランナー	304	35	▲5
ジブラルタル生命その他	389	20	▲20
コーポレートその他	▲541	10	▲10
グループ全体	931	50	▲25

さらに、第2四半期までの死亡リスク及び長寿リスクへの影響について、以下の図表の通りとしている(プレゼンテーション資料<sup>3</sup>P13「COVID-19 Potential Net Mortality and Cost Impacts」より)。



また、COVID-19によるコストとベネフィットについて、以下の図表の通りとしている。ここで、コストは主として国際部門での販売支援に関するもので、ベネフィットは主として米国における交通・接待費の減少による(プレゼンテーション資料 P13「COVID-19 Potential Net Mortality and Cost Impacts」より)。

Pre-tax AOI Impact (\$ millions)	2Q20	3Q20	4Q20 <sup>(2)</sup>
COVID-19 Costs	(\$80)	(\$40)	(\$20)
COVID-19 Benefits	\$30	\$15	\$15

なお、将来の見通しに関しては、「当社の優先事項、コスト削減目標、その他の事業戦略に関する記述は、市場や競争の状況、又はCOVID-19のパンデミックの影響を含むその他の要因により、戦略を

<sup>3</sup> [http://s22.q4cdn.com/600663696/files/doc\\_financials/quarterly\\_reports/2020/Q2/2Q20-Earnings-Call-Presentation\\_vFinal2.pdf](http://s22.q4cdn.com/600663696/files/doc_financials/quarterly_reports/2020/Q2/2Q20-Earnings-Call-Presentation_vFinal2.pdf)

実行できなくなるリスクにさらされている。」と述べている。

## 2 | MetLife

MetLife は、その 2020 年第 2 四半期の業績発表<sup>4</sup>において、COVID-19 に関して、Michel Khalaf 社長兼 CEO が「MetLife は第 2 四半期に堅調な業績を上げた。プライベート・エクイティ・ポートフォリオの減少は、予想の範囲内だった。引受業務では、十分に分散化された一連の事業が、COVID-19 からの請求の増加に対して有意義な相殺を提供した。また、同四半期は一貫した実行への継続的な取り組みを示した。」と述べた。

また、MetLife への予測される COVID-19 の影響に関する詳細は、「2020 年第 2 四半期の補足スライド<sup>5</sup>にある『第 2 四半期の補足スライド』という見出しの『第 2 四半期の展望』で入手できる。」として、この資料の「保険引受マージン」の項目において、以下のように述べている。

- ・ COVID-19 によるグローバルな請求の影響を大幅に相殺
- ・ 米国の生命保険の請求頻度の減少、ラテンアメリカの請求頻度の大幅な増加
- ・ グループのベネフィットは、72~77%の年間目標範囲の下限に近い非医療健康保険比率である。
- ・ 長寿が退職及び収入ソリューションにおける影響を相殺

なお、MetLife の第 2 四半期は、グループ全体で、前年同期の 17 億ドルの純利益に対して、96% 減少の 68 百万ドルの純利益だった。また、調整後利益 (Adjusted Earnings) は 7 億 58 百万ドル (前年同期は、13 億ドル、以下同様)、一株あたりで 0.83 ドル (1.46 ドル) だった。

COVID-19 の影響について、日本の四半期報告書にあたる Form 10-K の四半期開示に関する様式版である「10-Q」<sup>6</sup>における「連結会社の見通し」においては、以下のように述べている。

「COVID-19 パンデミックに関連する動向を注意深く監視し、当社のビジネスへの影響を評価し続ける。COVID-19 パンデミックは世界経済と金融市場に影響を与え続けており、世界の株式、クレジット、不動産市場にボラティリティを引き起こしている。政府や企業は、旅行の禁止と制限、検疫、社会的距離、適所への避難、又は完全な封鎖命令、ビジネスの制限と閉鎖など、ウイルスを封じ込めようとする多くの対策を講じてきた。一部の政府や企業は、いくつかの制限を緩和し始めている。他では以前解除した制限を復活させた。それにもかかわらず、これらの措置は混乱し、事業活動を中断させ続け、金融市場の景気減速とボラティリティをもたらし、これに世界中の中央銀行は前例のない財政及び金融政策で対応してきている。「-業界の動向-金融及び経済環境」を参照のこと」

「さらに、長期の低、ゼロ又はマイナスの金利環境が継続する可能性がある。現在の低金利環境は 2020 年に継続し、潜在的にはさらに長くなると予想される。当社の投資ポートフォリオは非常に分散化しており、景気の低迷に耐えられるように適切に配分されていると考えている。ただし、COVID-19 パンデミックの市場関連の影響、及び持続的な低金利環境が、引き続き投資ポートフォリオ全体に影響を与えると予想している。2019 年の年次報告書に含まれている「持続的な低金利環境の影響」は、市

<sup>4</sup> [https://s23.q4cdn.com/579645270/files/doc\\_financials/2020/q2/MET\\_2Q20\\_Earnings\\_Release-FINAL-2.pdf](https://s23.q4cdn.com/579645270/files/doc_financials/2020/q2/MET_2Q20_Earnings_Release-FINAL-2.pdf)

<sup>5</sup> [https://s23.q4cdn.com/579645270/files/doc\\_financials/2020/q2/MET\\_2Q20\\_Supplemental\\_Slides-FINAL.pdf](https://s23.q4cdn.com/579645270/files/doc_financials/2020/q2/MET_2Q20_Supplemental_Slides-FINAL.pdf)

<sup>6</sup> <http://d18rn0p25nwr6d.cloudfront.net/CIK-0001099219/ea8a8f5c-5ac4-4c7f-8164-2c511a781b90.pdf>

場の金利が当社の結果の主要な推進力であるため、当社が感応度を低下させるために講じた緩和策について議論している。「-業界の動向-金融及び経済環境」を参照のこと。」

「COVID-19 パンデミックに関連するイベントは、引き続き当社の事業運営、投資ポートフォリオ、デリバティブ、財務結果又は財務状況に悪影響を及ぼす可能性がある。「リスク要因-新型コロナウイルス (COVID-19) パンデミックの経過とそれに対する反応は不確実で予測が難しいが、悪影響を受けており、当社の事業、経営成績、及び財政状態に悪影響を及ぼし続ける可能性がある」を参照のこと。リスク管理と事業継続計画を実施し、予防措置やその他の事前対応策を講じた。これにより、これまでに、重要なビジネスプロセス、顧客サービスレベル、主要ベンダーとの関係、財務報告システム、財務報告に対する内部統制及び開示の統制と手順を維持できるようになった。」

また、「投資リスク」の「現在の環境」においては、以下のように述べている。

「グローバルな保険会社として、私たちは変化するグローバルな金融及び経済環境、世界中の中央銀行の財政及び金融政策、ならびに政府の措置の影響を受け続けている。COVID-19 パンデミックは世界経済と金融市場に影響を与え続けており、世界の株式、クレジット、不動産市場に変動を引き起こしている。「-業界の動向-金融及び経済環境」を参照のこと。

世界中の政府と中央銀行は、COVID-19 パンデミックに前例のない財政政策と金融政策で対応しており、これは金融市場と世界経済に重大かつ継続的な影響を与えると予想されている。これらの政策対応には、財政支援、流動性プログラム、新しい融資制度、殆どゼロやゼロ及び一部の市場ではマイナスの金利水準への引き下げを含むがこれらに限定されない財政及び金融刺激策が含まれる。時間の経過とともに、これらの政策の有効性と、それらが世界経済及び金融市場の見通しにとって何を意味するかについて、さらに知るようになるが、現在のところ、当社の事業運営、投資ポートフォリオ及びデリバティブへの影響を適切に判断するために、COVID-19 パンデミックの影響の期間と深刻度を確実に推定するには、要素が多すぎる。

COVID-19 パンデミックが世界経済と市場に影響を与えた結果、2020年6月30日に終了した6か月間に、金融市場で経済の減速とボラティリティが発生・拡大した。その結果、2020年6月30日に終了した6か月間に、当社のポートフォリオ内の特定の投資の価値が減少した。ただし、これらの影響の一部は、このような市場リスクをヘッジする特定の独立したデリバティブの価値の増加によって緩和された。これらの条件はしばらく続く可能性があり、リスクを伴う投資の価格設定レベル、ならびに当社の事業運営、投資ポートフォリオ及びデリバティブに影響を与え続ける可能性がある。」

また、「その他の情報-リスクファクター」の項目のなかで、「パンデミックの経過とそれに対する反応は不確実で予測困難であるが、悪影響を受け、当社の事業、業績、財務状況に悪影響を及ぼし続ける可能性がある。」として、引き続いて具体的な説明を行っている。

将来見通しに関しては、「結果は、将来の見通しに関する記述において明示又は暗示されているものとはかなり異なる可能性がある。このような差異を生じ得るリスク、不確実性、及びその他の要因には、MetLife, Inc.が米国証券取引委員会に提出した書類に記載されているリスク、不確実性、及びその他の要因が含まれる。これらの要因には次のものが含まれる。」として、「(1) COVID-19 パンデミックの経過とそれに対する対応。これはまた、残りのリスクを誘発又は悪化させる可能性がある。」と

述べている。

### 3 | AIG

AIG は、その 2020 年第 2 四半期の業績発表<sup>7</sup>において、COVID-19 の影響について、以下のよう  
に述べている。

- ・損害保険は、第 1 四半期に、再保険後で 6 億 74 百万ドルの税引前のカタストロフィ損失 (CAT) を記録した。これには、4 億 58 百万ドルの COVID-19 損失、1 億 26 百万ドルの社会不安関連損失、90 百万ドルの自然 CATs が含まれる (このうち、北米が、再保険後で 5 億 19 百万ドルの CAT (3 億 64 百万ドルの COVID-19 損失、81 百万ドルの社会不安関連損失、74 百万ドルの自然 CATs)、国際部門が、再保険後で 1 億 55 百万ドルの CAT (94 百万ドルの COVID-19 損失、45 百万ドルの社会不安関連損失、16 百万ドルの自然 CATs) となる)。なお、COVID-19 の影響で旅行事業の保険料が大きく減少している。
- ・生命保険と退職は、8 億 81 百万ドルの調整後利益 (税引前) を報告したが、これはプライベート・エクイティの損失、スプレッドの縮小継続、COVID-19 関連の死亡率上昇などにより、前年同期に比べて 1 億 68 百万ドル減少した。なお、個人退職及び年金では、第 2 四半期にネットフローがマイナスとなり、前年同期と比較して、価格統制と COVID-19 による広範囲にわたる販売チャネルの混乱により、減少した。グループ退職では、COVID-19 による販売チャネルの混乱により、引き続きネットフローがマイナスとなった。なお、新契約販売は、引受行動と米国における販売チャネルの混乱により、国際部門でのグループ販売の強い成長によって一部相殺されたが、若干減少した。

また、Brian Duperreault CEO は、以下のように述べている。

「この 3 年間で築き上げた強固な基盤のおかげで、現在の複雑な環境を効果的に乗り切っている。これまで例を見ないほど、COVID-19 は AIG にとって、資本ではなく収益であり続けている。また、第 2 四半期末には 100 億ドルを超える流動性を確保し、財務の柔軟性を高めた。」

さらに、以下のように記述されている。

「AIG の実際の業績及び財務状況は、これらの予測、目標、前提条件及び計算書に示された業績及び財務状況とは、おそらく大幅に異なる可能性がある。AIG の実際の業績が、特定の予測、目標、前提条件及びステートメントと大きく異なる可能性のある要因には、COVID-19 に直接的に言及している項目だけでも、以下のものが挙げられている。

- ・ AIG の事業、財務状況及び経営成績を含む COVID-19 の悪影響
- ・世界的な著しい景気後退、一般市場の下落、景気回復の長期化、COVID-19 を原因とする AIG の事業の中断を含む市場及び業界の状況の変化、ならびに新規又は変更された政府の政策や規制措置を含む対応
- ・ COVID-19、パンデミック、市民の不安、気候変動の影響を含む自然災害と人的災害の両方の発生
- ・ COVID-19 による遠隔地でのビジネス活動の拡大により増加する可能性のある、サイバー攻撃又は

<sup>7</sup> [https://www.aig.com/content/dam/aig/america-canada/us/documents/investor-relations/2020/aig\\_reports\\_2q\\_2020\\_results.pdf](https://www.aig.com/content/dam/aig/america-canada/us/documents/investor-relations/2020/aig_reports_2q_2020_results.pdf)

セキュリティの脆弱性の結果を含む、情報技術、サイバーセキュリティ又はデータセキュリティに対する潜在的な侵害の影響」

さらに、今後の COVID-19 の影響については、以下の通り述べている。

「COVID-19 は、当社の事業、財務状況及び経営成績に悪影響を及ぼしており、また、今後も悪影響が及ぶことが予想される。危機が収束した後も、米国をはじめとする主要経済国においては、景気後退が長期化する可能性があり、その場合には、当社グループの事業、経営成績及び財政状態に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。COVID-19 が当社の事業、財務状況及び経営成績に及ぼす影響に関する記述は、将来の見通しに関する記述を構成する可能性があり、実際の影響がこれらの将来の見通しに関する記述に反映されているものと、COVID-19 の範囲と期間及びその影響を緩和するために政府当局や規制当局が講じる措置など、不確実で予測不可能な、多くの場合私たちの制御が及ばない要因と将来の動向によって、場合によっては大幅に異なる可能性があるというリスクに曝されている。」

### 3—大手再保険グループの公表内容

ここでは、大手再保険グループから、Munich Re（ミュンヘン再保険）と Swiss Re（スイス再保険）の状況について報告する。

#### 1 | Munich Re

Munich Re は、その 2020 年第 2 四半期の業績発表<sup>8</sup>において、「COVID-19 からの多額の損失にも関わらず、良好な第 2 四半期の結果を計上」と述べた。

Munich Re の第 2 四半期の利益は、グループ全体で、前年同期の 16 億 26 百万ユーロから、8 百万ユーロに大幅に減少した。第 2 四半期だけでは、前年同期の 9 億 93 百万ユーロが 5 億 79 百万ユーロに減少した。これは、COVID-19 からの損失が、第 2 四半期だけで 7 億ユーロ、第 2 四半期累計で 15 億ユーロ発生したことによるもので、これを除けば事業の進展は心強いものであった。

年初以降に発生した COVID-19 関連の損失 15 億ユーロのうち、約 14 億ユーロは損害保険、約 1 億ユーロは生命保険及び健康保険によるものであった。ERGO のパンデミック関連の損失は二桁台前半の百万ユーロのレンジにとどまった。損害保険の約 14 億ユーロの損失は様々な事業分野で発生しているが、偶発損失が最大のシェアとなっている。また、そのうち 80 百万ユーロが支払済や既報告済で、13 億ユーロが IBNR である。生命保険及び健康保険の約 1 億ユーロの損失の殆どは米国からのものである。

生命保険と健康保険の再保険事業は 59 百万ユーロ（前年同期は 1 億 54 百万ユーロ、以下同じ）の利益を生み出した。保険料収入は 33 億 32 百万ユーロ（27 億 40 百万ユーロ）に増加した。この四半期の業績には COVID-19 の死亡による損失も反映されている。重大ではないリスク移転を伴う事業を含む技術的結果は 48 百万ユーロ（72 百万ユーロ）であった。今日の観点から、特に COVID-19 が引き上げた死亡率に起因する損失のために、重大ではないリスク移転を伴う事業を含め、技術的結果に

<sup>8</sup> <https://www.munichre.com/en/company/media-relations/media-information-and-corporate-news/media-information/2020/half-year-financial-report.html>

設定した年間目標 5 億 50 百万ユーロは、もはや現実的に達成可能ではない、としている。

10 百万ユーロ以上の大きな損失は、合計 7 億 99 百万ユーロ（2 億 2 百万ユーロ）であった。これには、過年度の多額の損失処理に伴う損益が含まれている。また、大きな損失は正味収入保険料の 14.8%（4.1%）に相当し、長期平均の 12%を上回っている。これは主にコロナウイルスのパンデミックに関連した大きな損失に起因している。これに関連して、最も重要な損失は主要なイベントの中止又は延期に関連して発生した。

なお、子会社の元受保険グループである ERGO においては、COVID-19 による旅行事業の保険料規模が低下した。

今後の見通しに関しては、以下のように述べている。

COVID-19 の経済・金融面でのさらなる影響に関して不確実性が高い状況が続いていることから、Munich Re は 2020 年の利益見通しを発表していない。Munich Re は、年間利益目標と同様に、再保険事業の年間利益のサブ目標と損害保険再保険のコンバインドレシオの予測を撤回した。また、Munich Re は、生命保険及び健康保険における重大ではないリスク移転を伴う事業（当初目標：5 億 50 百万ユーロ）を含む技術的結果に関するガイダンスを撤回した。

収益性の高い成長により、Munich Re は現在約 540 億ユーロ（前回:約 520 億ユーロ）の保険料収入を見込む。360 億ユーロ（前回:340 億ユーロ）の保険料収入が、再保険事業の分野で想定されている。

2020 年第 1 四半期報告書で指定されている他の全てのサブ目標は変更されていない。通常の場合と同様に、予想は通常の範囲内で大きな損失や為替や資本市場の激しい変動、税制の著しい変化、又はその他の一時的な効果によって影響されない損益計算書の影響を受ける可能性がある。

## 2 | Swiss Re

Swiss Re は、その 2020 年第 2 四半期の業績発表<sup>9</sup>において、COVID-19 の影響について、Christian Mumenthaler CEO が「最新の情報に基づいて当社の事業を慎重に分析し、また現在進行中のパンデミックの不確実性も踏まえた結果、2020 年上半期に計上した支払保険金と準備金により、新型コロナウイルス関連の最終的な損失額の大部分をカバーできると予想している。収益への影響は甚大だが、管理可能な状態を保っている。Swiss Re の事業は中断することなく好調に推移しており、回復しつつある市場で魅力的な機会を捉えることのできる資本水準を維持している。」と述べた。

また、グループの COVID-19 による損失の大部分は、IBNR（既発生未報告）備金が占めているとし、パンデミックに関連するいくつかの要因（例えば、将来的な感染率と死亡率、事業活動等に対するパンデミック対策の期間と効果、効果的なワクチンや代替治療法が確立する時期、法的又は規制上の取組み、保険金の支払責任に関する裁判や仲裁の結果、政府の景気対策の効果、景気後退の影響の深刻度と期間）により、今後の四半期毎の保険金支払額は、この予想値に対して上下に変動する可能性がある、としている。

グループ全体では、2020 年上半期において、25 億ドルの COVID-19 関連の支払保険金及び準備金

<sup>9</sup> <https://www.swissre.com/media/news-releases/nr-20200731-hv-2020-news-release.html>

を計上した結果、11億35百万ドルの純損失となった。COVID-19の損失の影響を除いた当期純利益は、前年同期の9億53百万ドルに対して、8億65百万ドルとなった。なお、ROE（年率、以下同様）は前年同期の6.6%から▲7.9%に低下したが、COVID-19の影響を除くと5.8%だった。

事業部門別には、以下の通りとなっている。

#### (1) 損害再保険事業（P&C Re）

- ・損害再保険事業は、前年同期の7億71百万ドルの純利益から5億19百万ドルの純損失となったが、COVID-19の影響を除くと6億46百万ドルの純利益となった。
- ・ROEは、前年同期の15.9%に対して▲12.8%で、COVID-19の影響を除くと14.9%だった。コンバインドレシオは115.8%で、COVID-19に関連する支払額を除くと100.5%となり、2020年通年の97%の平準化調整後<sup>10</sup>の予想コンバインドレシオの達成に向けて順調に進んでいる。

#### (2) 生命・医療再保険事業

- ・生命・医療再保険事業（L&H Re）の純利益は前年同期の4億69百万ドルから74百万ドルに大きく減少したが、COVID-19の影響を除くと5億16百万ドルだった。
- ・ROEは、前年同期の13.1%に対して1.8%で、COVID-19の影響を除くと12.4%だった。
- ・2020年上半期の新型コロナウイルス関連の支払保険金と準備金は5億48百万ドルで、これは主として、米国と英国における死亡保険金支払額（報告済及びIBNR）が予想レベルを上回ったことによる。

#### (3) コーポレート・ソリューションズ

- ・コーポレート・ソリューションズは、純損失が前年同期の4億3百万ドルから3億1百万ドルとなったが、COVID-19の損失を除くと81百万ドルの純利益だった。
- ・COVID-19に関連する支払保険金と準備金は、2020年上半期で4億85百万ドルとなっており、米国会計基準による純損失は3億1百万ドルとなった。損失の約半分は、コーポレート・ソリューションズが2019年に引受を終了した保険種目であるイベント中止に関連する支払保険金と準備金であり、残りは物的損害を伴わない事業中断を明示的に保障する保険と保証・取引信用保険の損失である。

#### (4) ライフ・キャピタル

- ・ライフ・キャピタルは、2020年上半期に2億17百万ドルの純損失を計上したが、この損失はPhoenixの株価下落に関連する時価評価の変化が大きく影響したものであり、その一部は幅広い英国株式市場でのヘッジで相殺されている。予想される死亡率の影響を反映させたCOVID-19に関連する損失は、13百万ドルと小幅にとどまった。

今後の見通しについて、Christian Mumenthaler CEOは、以下のように述べている。

「我々は、今年これまでのSwiss Reの全ての事業における良い進展に勇気付けられている。今後のCOVID-19の損失については、ある程度不透明感が残るものの、当グループの業績には自信を持っている。規律ある資本管理のおかげで、私たちは、顧客を支援し、価格条件を改善する上で、ビジ

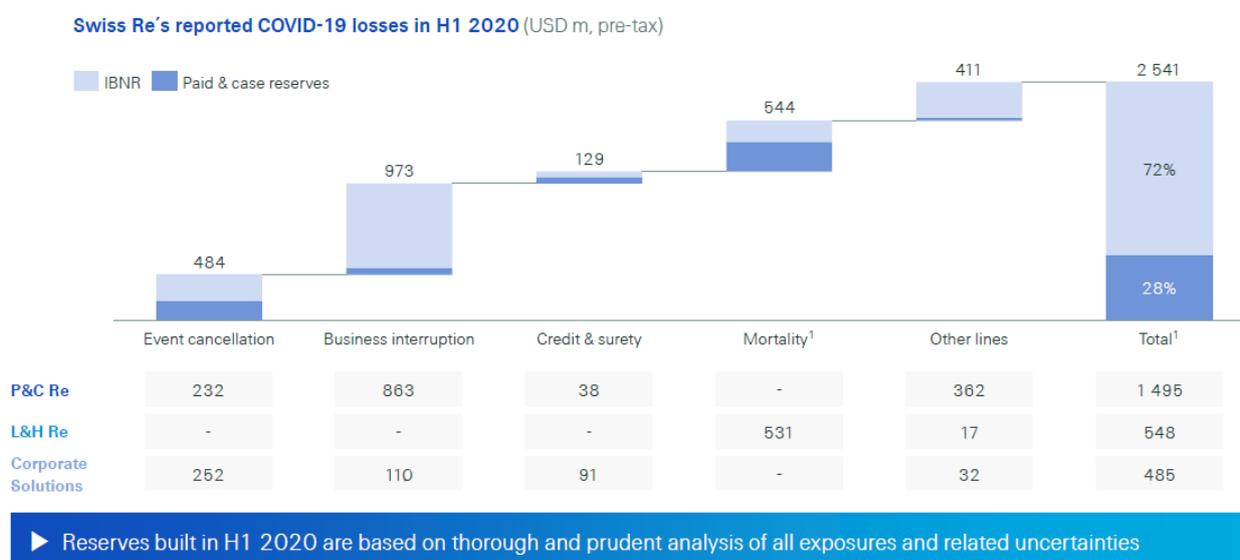
<sup>10</sup> 新型コロナウイルスによる影響及び前年度の準備金の推移を考慮せず、平均的な大規模自然災害に伴う損失負担を想定したもの

ネスの成長のために資本を展開し続ける強い立場にある。」

(参考) Swiss Re のプレゼンテーション資料<sup>11</sup>における報告内容 (抜粋)

- COVID-19 関連の損害保険損失額は、過去に記録された巨大事象に匹敵するが管理可能であると想定されている。
  - 日本の東日本大震災 (2011 年) を上回り、2017 年のハリケーン Harvey、Irma、Maria や 2005 年のハリケーン Katrina に匹敵するものと想定されている。
- COVID-19 損失の大部分は、IBNR として計上されている。
  - 事業種類別の内訳は、以下の通りとなっている (プレゼンテーション資料より)。

## ■ Vast majority of Swiss Re's COVID-19 losses are booked as IBNR



- 最終的な COVID-19 保険損失の大部分は、2020 年上半期に発生したと想定されている。
  - 米国会計基準では、上半期で発生したとみなされる全ての損失は、顧客から報告されたかどうかにかかわらず認識される。
  - SST (スイスソルベンシーテスト) では、将来の予想損失も含んでいるため、損失推計値はより高くなる。
  - 事業中断と死亡率については、基礎となるデータによると、損失の大半が第 2 四半期に発生している。アジアと欧州では、さらなるロックダウンなしにパンデミックの拡大を管理している。
  - 多くの参加者を集めるイベントは 2020 年に中止される見込みである。コーポレート・ソリューションズは 2019 年上半期にイベント中止事業から撤退しており、2021 年の残りのエクスポージャーは最小限である。
  - その他の事業の計上済み IBNR は、様々な事業種類の推計値の全体的な不確実性を反映している。

<sup>11</sup> <https://www.swissre.com/dam/jcr:44cb7cb8-71e5-4eca-ae42-0452b65feca4/hv-2020-slides-presentation-doc.pdf>

## 4—まとめ

以上、今回のレポートでは、米国大手保険グループ及び大手再保険グループの第 2 四半期の業績発表の中から、COVID-19 の影響等に関する公表内容について報告してきた。

各社の公表内容は、各社各様で、その説明資料等も様々である。

ただし、各社とも損害保険(再保険)事業を中心に、第 2 四半期において COVID-19 の大きな影響を受けており、第 1 四半期の業績発表において撤回した年初の収益予想等を引き続き提示していない。また、項目によっては、新たな今後の予測数値を提供しているケースもあるが、これらについても引き続き高い不確実性を有しているとして、それらが達成される上でのリスク等についての説明も行っている。一方で、同時に、これらの COVID-19 の影響にも関わらず、会社の財務状況の堅固さや顧客対応等の業務運営は揺るぎないものである等との声明も公表している。

次回のレポートでは、欧州大手保険グループの第 2 四半期における COVID-19 の影響等の公表内容について報告する。

以上